

Part 3

サステナビリティ

- 39 サステナビリティ戦略
- 41 「CSV Goals」に基づいた取り組み
- 43  多様性の尊重
- 47  地域社会
- 51  資源



広島県 福山市 瀬戸内海国立公園 鞆の浦にて

撮影：コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング株式会社
西日本オペレーションズ事業統括部
和泉 修

サステナビリティ戦略

「当事者意識」をキーワードにサステナビリティ経営を推進

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
執行役員 最高経営戦略責任者 兼 経営戦略本部長

荷堂 真紀



共創価値を経営の根幹とする当社のサステナビリティ戦略

CCBJHグループでは「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します」というミッションを掲げています。この言葉には、当社の社員一人ひとりが製品・サービスを通じて、すべての人の日々の生活に寄り添い、幸せな時間や人生の大切な場面につながる価値を生み出し、未来へつないでいくと

いう強い想いが込められています。当社はこの価値の創造において事業の成長による経済価値、そして社会課題の解決で生み出される社会価値、この2つの価値をともに向上させる共創価値(CSV:Creating Shared Value)を経営の根幹としています。これが当社のサステナビリティ戦略の基礎となっています。

ミッション実現に向けた「CSV Goals」の達成

2019年、日本のコカ・コーラシステムは「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の3つのプラットフォームと9つの重点課題を特定した「サステナビリティフレームワーク」を発表しました。当社は、重点課題を特定するだけでなく、解決するために具体

的な数値目標として非財務目標「CSV Goals」を定めています。そして、毎年取り組みの進捗を確認しながら、バリューチェーン全体でPDCAサイクルを回し、着実に目標達成に向けて歩みを進めています。

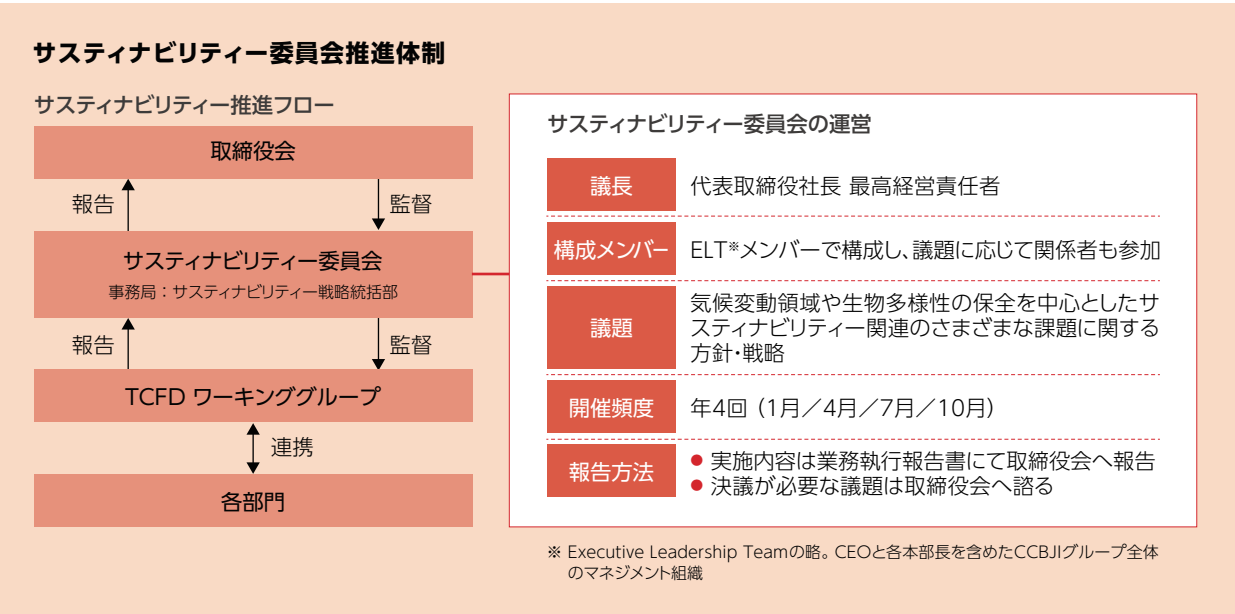
サステナビリティ委員会の新設

当社は、2023年より、サステナビリティ委員会を新設し、「CSV Goals」をベースに、気候変動や生物多様性などのさまざまな課題について方針・戦略などを定める体制を強化しています。当委員会では、エグゼクティブリーダーシップチーム(ELT)

のメンバーがサステナビリティ課題について議論を行い、決定した方向性や戦略を速やかに各部門へフィードバックすることにより、各部門におけるサステナビリティ活動の徹底と円滑化を図っています。また、取締役会でも気候変動領域や

生物多様性の保全を含むサステナビリティ関連のリスク対策が重要だと考えており、経営方針を策定するにあたり、サ

ステナビリティ委員会で議論されたリスク選定および成長性を考慮しています。



社外に向けた開示情報の充実、社内に向けた当事者意識の醸成

当社は、気候変動の適応と緩和をマテリアリティのひとつに挙げており、2022年はTCFDに基づく情報開示や気候変動イニシアティブへの参画、そのほかにも地域の方々と社員の協力により森林保全や水源涵養の活動を各地で実施しました。また、資源を有効活用すべく「ボトルtoボトル」をはじめ、「CAN to CAN」*1)「パレットtoパレット」*2)「シェルtoシェル」*3)など、さまざまな水平リサイクルの取り組みも継続的に推進しています。社員が「CSV Goals」を理解・共感・納得して行動につなげら

れるように定期的なオンライン勉強会や、eラーニングの実施、また、社外に向けて当社のサステナビリティの取り組みを伝えられるように社員講師の育成を行っています。こうした取り組みが一人ひとりの意識の変化や当事者意識を持った行動のきっかけとなり、社会課題の解決につながると考えています。

*1 アルミ缶の水平リサイクル
*2 製品の輸送や保管の際に使用される水色や黒色などの荷役台
*3 瓶製品を入れるケース

サステナビリティの取り組みを継続することが、ハッピーなひとときと、価値創造の実現につながる

当社は、かけがえのない「水」を使用しビジネスを行う企業として、自然環境を保全するという目的を持ち、水の持続可能性と環境負荷低減に取り組んでいます。そのため、何十年にもわたり「水」を保持するための植林活動の実施や水源の清掃活動に社員も積極的に参加し、工場で使用した水と同等量の水を保全し自然に還すといった涵養活動を行ってきました。私たちが重要

と捉え、継続してきたことが、結果的に社会課題の解決につながっています。今後も、さまざまな社会課題に積極的かつ持続的に取り組むことで、価値を生み出し、水も空気もきれいで誰もが豊かな暮らしを楽しんでいる、ハッピーなひとときを体感できる世界の実現を目指していきます。

「CSV Goals」に基づいた取り組み

CCBJHグループが非財務目標として掲げる「CSV Goals」

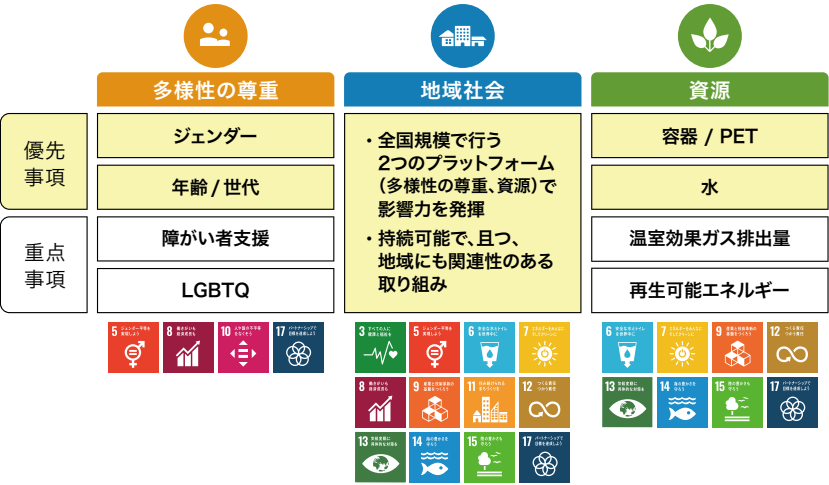
私たちは、日本のコカ・コーラシステムの「サステナビリティフレームワーク」をベースに、より具体的な非財務目標「CSV Goals」を定め、持続可能な事業と社会、そしてミッションの実現に向けて取り組みを進めています。「CSV Goals」の各項目の達成に向けては、バリューチェーン全体で取り組みを実施、進捗を確認し、着実に目標達成に歩みを進めています。

PETボトルにおける「サステナブル素材*の使用率」については、「ボトルtoボトル」などの取り組みが順調に進捗しており、2022年実績で50%を達成しています。また、当社が保有する全17工場の水源域において、森林保全団体や自治体と水源保全に関する協定を締結するなど、地域社会との連携を強化しており、2022年の水源涵養率は目標を大幅に上回っています。

今後の注力分野は、マテリアリティのひとつとして特定した気候変動の緩和と適応です。温室効果ガス（GHG）削減の取り組みとしてバリューチェーン全体で、2030年までに「スコープ1（直接的なGHG排出量）」および「スコープ2（間接的なGHG排出量）」の2015年比50%削減、「スコープ3（その他の間接的なGHG排出量）」の同比30%削減、2050年までに温室効果ガス実質ゼロに向けて取り組んでいます。さらに、再生可能エネルギーの導入の取り組みも進め、GHG削減目標の達成を目指していきます。

※「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

日本のコカ・コーラシステムの「サステナビリティフレームワーク」



「CSV Goals」と達成状況

■■■■ 80%以上 ■■■ 50%～79% ■■■ 50%未満 (注)記載のない限り、基準年は2015年、目標年は2025年						
サステナビリティフレームワーク	重点課題	項目	目標数値	2021年実績 (12月末)	2022年実績 (12月末)	進捗度
 多様性の尊重	ダイバーシティ&インクルージョン	女性管理職比率(2025年までに)	10%	6.3%	6.6%	■■■
		女性管理職比率(2030年までに)	20%			■■■
 地域社会	製品 (ニーズに合わせた製品開発／健康サポート)	主要ブランドでのノーカロリー／低カロリー製品のラインナップ	100%	100%	100%	■■■
		特定保健用食品(トクホ)および機能性表示食品の販売数量増(2016年比)	300%	177%	146%	■■■
		パッケージ前面でのカロリー表示およびわかりやすい栄養表示	100%	100%	100%	■■■
		コカ・コーラシステム「責任あるマーケティングポリシー」の遵守	100%	100%	100%	■■■
	社会 (地域への社会貢献活動)	社員のボランティア参加率	10%	3.7%	20.0%	■■■
		コミュニティプログラム参加人数累計	100万人	90万人	91万人	■■■
 資源	World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)	サステナブル素材*1の使用率(2022年までに)	50%	40%	50%	■■■
		サステナブル素材*1の使用率(2030年までに)	100%			■■■
		サステナブル素材*1使用製品の割合(販売本数ベース)(2025年までに)	100%	約90%	約90%	■■■
		さらなるPETボトルの軽量化(2004年比)(2030年までに)	35%	30%以上	30%以上	■■■
		販売量と同等の回収量(2030年までに)	100%	94.0%*2	—	■■■
		環境保護団体や業界団体との幅広い連携(2030年までに)				
	水	水源涵養率。工場近辺の水源、流域に注力	200%	353%	420%	■■■
		水使用量削減(2030年までに)	30%	19%	19%	■■■
	気候変動	温室効果ガス削減 スコープ1、2(2030年までに)	50%	21%	20%	■■■
		温室効果ガス削減 スコープ3(2030年までに)	30%	24%	25%	■■■
		温室効果ガス排出量実質ゼロ(2050年までに)				
		再生可能エネルギーの推進				
	調達／人権 (事業基盤の強化)	持続可能な原材料調達	100%	100%	100%	■■■
		CCBJHグループバリューチェーン上でのサプライヤー基本原則(Supplier Guiding Principles)の遵守	100%	100%	100%	■■■

※1 「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計
※2 PETボトル回収率（出典：PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクル年次報告書2022」）

多様性の尊重

ステークホルダーの多様なニーズに対応し、持続的な成長を実現するために多様な人財の育成に注力していきます。また、さまざまなバックグラウンドや価値観を持つ社員一人ひとりが能力を発揮できる職場環境の構築を進めていきます。

ダイバーシティ・エクイティー&インクルージョン(DE&I)

CCBJHグループは、DE&Iの推進をマテリアリティのひとつと位置付けています。環境やお客さま、お得意さまの多様なニーズに対応し、私たちが持続的に成長していくために、多様性を重視し、さまざまなバックグラウンドや価値観を持つ社員一人ひとりが学ぶ向上心を忘れず能力を発揮できる職場環境を構築しています。

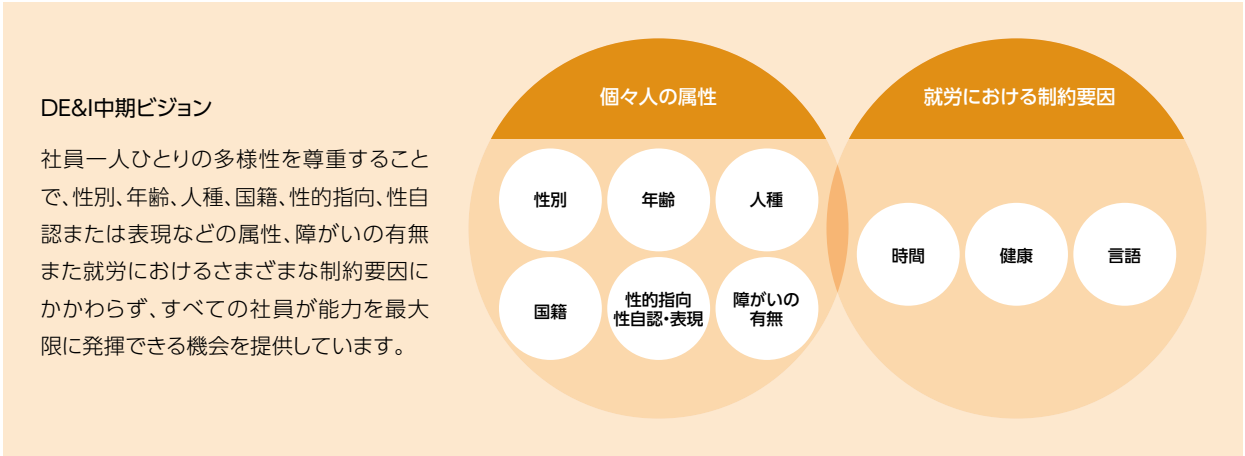
マネジメント体制についても、国籍、性別、年齢や経歴など多様性を重視しており、さまざまな角度から課題を捉え議論し、意思決定を行うなど、ダイバーシティ経営の実現に努めています。

ダイバーシティに関する全社施策は専任部門であるDE&I課が企画・推進をリードしています。隔月でダイバーシティ・フォーラムを開催し、各部門から選出されたアンバサダーと人事担当者がベストプラクティスや課題を共有し、タイムリーに問題を解

決し、よりよい職場環境の構築を推進しています。

●DE&I 意識向上のための全社施策

DE&Iを実現するためには、社員一人ひとりが持つバックグラウンドや価値観、考え方の違いをお互いが尊重し、関心を持ち協力し合うことが重要です。差別やハラスメントのない職場づくりに向けて、私たちはハラスメント行為に対して厳しい規定を設けています。また、入社時や管理職就任時に加え、定期的に各部門の特徴に合わせた実践的なハラスメント防止トレーニングを通じて、健全な職場環境の醸成に注力しています。多様性を理解し尊重し合える組織文化の醸成・定着に向けた取り組みとしては、アンコンシャスバイアス・トレーニングやインクルーシブリーダーシップ・トレーニングを提供しています。



ナショナルリティ

私たちは多様性が成長の原動力であるという考え方のもと、外国籍人財を新卒や中途で採用を行い、多様性に取り組んでいます。外国籍の社員には、日本語や日本文化、暮らし方に関するトレーニングを提供し、スキルや能力を十分に発揮できるよう

サポートしています。また、世界のコカ・コーラシステム内での人財交流プログラムを通じて、海外のベストプラクティスから学ぶことで業務改革を進め、ビジネスの成長へつなげています。



ジェンダー

私たちは女性が活躍しやすい環境の整備に注力しています。フレキシブルワークやリモートワーク制度を導入しているほか、配偶者出産休暇制度の充実および休暇取得率の向上など全方位的な取り組みを展開しています。

また、女性管理職および管理職候補者育成のため、職責や階層に応じた育成プログラムを構築し、女性が管理職や経営陣として求められる視座やスキルを体系的に学ぶことができる仕組みを構築しています。

●スポンサーシップ・プログラム
(女性取締役候補者育成プログラム)

女性取締役候補者の育成を目的とした、部門長向けのプログラムです。対象となるのは、女性の部門長で、スポンサーとなる役員との定期的な個別面談を通じ、経営に必要な視点や視座を学ぶ機会を提供しています。

●Accelerate Her
(女性部門長候補者育成プログラム)

女性部門長候補者の育成を目的とした課長層向けのプログラムです。さまざまな部門からメンバーを選出し、部門長に求められる高度なコンフリクトマネジメントスキルや発信力、リーダーシップスキルを身に着けることを目指す半年間の部門横断プロジェクトを実施しています。長期にわたるプロジェクト実施により、課長同士のネットワークの構築を促進し、女性リーダーが孤立せず、いつでも相談し合えるプラットフォームとしての役割も果たしています。

●Female Leadership Program
(女性一般職向けリーダーシップ研修)

女性課長候補者育成を目的とした一般社員向けのプログラムです。対象となる女性社員は、約半年間の女性リーダーシップ研修を通じ、リーダーとしてのマインドセットと必要なスキル

女性管理職比率(2023年2月末時点)

7.2%

目標

2025年までに10%

2030年までに20%

を学びます。各自が自分の強みと課題に気づき、キャリア開発に向けた新たな行動につなげることを目指します。また、女性社員の上司にも研修を行い、女性の昇進を促すインクルーシブな社風づくりを築いています。

●男性育休取得促進への取り組み

男性社員が育児休暇制度を活用しやすくするため、男性の休暇取得意識の向上に取り組んでいます。男性の育休の認知度を高めるために、2018年から「パパエプロン」という取り組みを導入しました。子どもが生まれた男性社員へ、その上司から当社オリジナルデザインのエプロンをチームミーティングの場で手渡すことで、周囲に育休取得への協力を仰ぎ、本人へ育休取得を促すことを目的としています。今後も制度の策定だけでなく、活用しやすい仕組みや施策の充実にも注力していきます。

当社商品をデザインに用いたパパエプロン

国際女性デー

2023年より、3月8日の国際女性デーを含む1週間を「インターナショナル・ウィメンズ・ウィーク」と定め、社外スピーカーを招いてのパネルディスカッションや、社内女性管理職からキャリアの作り方を学ぶセッションなどを開催しています。全ての社員がジェンダー平等について学び、個人や組織の観点からジェンダー平等を実現するための課題を見つけ、その解決策を考え、具体的な行動を促すきっかけづくりに役立てています。

多様性の尊重

次世代育成

●企業内大学「コカ・コーラ ユニバーシティ ジャパン(CCUJ)」

将来のコカ・コーラシステムをけん引し、変革を導く次世代リーダーの育成と、飲料市場に新たな価値を提供することを目的として、2020年に企業内大学「コカ・コーラ ユニバーシティ ジャパン(CCUJ)」を立ち上げました。CCUJは、部長層、課長層、一般職層の3階層から構成され、各部門から選抜されたメンバーは約半年間のプログラムを通じて、私たちの成長の軸となる「イノベーション」「戦略的思考」「ピープルマネジメント」「エフェクティブコミュニケーション」「グロースマインドセット」という5つのケイパビリティに紐づく自身の強みの強化と課題の解消に取り組みます。また、異なる部門のメンバーとのプロジェ

クトや議論を通じて、参加者はより高く視座、広い視野を獲得し、次世代を担うリーダーとして成長しています。

●英語力強化プログラム

「GET(Global English Transformation)」

CCBJHグループとして海外からもさらなる知見を吸収し、私たちの日々の活動やビジネスの成長につなげていくために、20代から30代の社員を対象とした英語力強化プログラム「GET(Global English Transformation)」を提供しています。参加者は半年間の集中プログラムを通じてお互いの進捗を競い合い、励まし合いながら着実に英語力を強化しています。



障がい者支援

障がいのある人財がそれぞれの強みを発揮して活躍できる就業環境の提供を目指し、2019年に特例子会社を設立しました。特例子会社ではランドリー業務をはじめ、事務業務、販売機器部品洗浄業務など多彩な業務ポジションを用意し、社員がそれぞれの障がいに合わせた特性や能力を発揮し活躍しています。また、私たちはパラアスリート・デフアスリートの活動も応援しています。在籍するアスリートは競技活動への参加に加え学校や地域団体への障がいや多様性にかかわる講義の実施などを通じ地域社会に幅広く貢献しています。

障がい者雇用比率※

2.48%

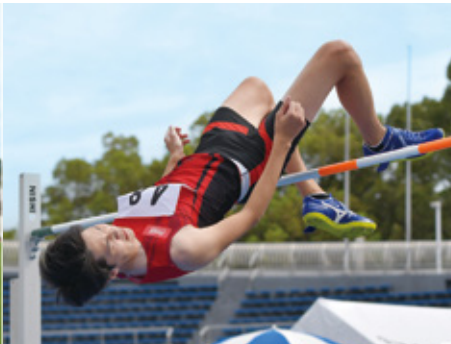
※2022年度 管轄の公共職業安定所長あてに提出している「障害者雇用状況報告書」(2022年6月1日)の数値



特例子会社の主要業務であるユニフォームランドリー業務



2024/パリ大会出場を狙うパラ陸上やり投げ 政成 晴輝選手



十種競技との二刀流を目指すデフ陸上走り高跳び 高居 千紘選手

LGBTQ

●社内浸透の取り組み

私たちは、すべての社員がLGBTQに関する正しい知識を持ち、社内外を問わず差別のない、多様性が尊重される環境を醸成していけるよう、制度や仕組みの構築や啓発、アライ*ネットワークの発足などに積極的に取り組んでいます。

社内規程における配偶者の定義を改定し、パートナーの性別や婚姻関係の有無にかかわらず育児休暇や介護休暇などの福利厚生制度を利用できるようにしたほか、人権ポリシーの記載に「性自認または表現」を追加し、身体的な特徴だけでなく「こころ」や「らしさ」といった多様な性のあり方を包含した方針を打ち出しています。また、2021年にはLGBTQ相談窓口を開設し、当事者だけでなく上司や同僚がLGBTQに関する悩みや疑問を匿名で相談できる体制を構築しました。

※「同盟」や「味方」などを意味する英語「ally」が語源で、自分自身が性的マイノリティであるかどうかによらず、積極的にLGBTQ+を理解し、サポートする人

●社外における活動

日本コカ・コーラとともに「東京レインボープライド2023」に協賛してブースを出展しました。ブースではイベントを記念したレインボーのリストバンドを巻いた「コカ・コーラ」のセット販売や当社と日本コカ・コーラのDE&Iに関する取り組みを展示し、当社社員も参加して連日のイベントを盛り上げました。

●LGBTQ+アライのためのハンドブック作成

LGBTQ+アライの基本的な解説や用語集、歴史や今の状況などをわかりやすく網羅した「LGBTQ+アライのためのハンドブック」を日本のコカ・コーラシステム全体に導入しました。同ハンドブックは全社員に公開したほか、LGBTQ+への理解促進を検討しているあらゆる企業・団体のみなさまに無償でご活用いただけるようにしています。



東京レインボープライドへの日本コカ・コーラとの協働参画(2023年)



「東京レインボープライド2023」を記念したリストバンド



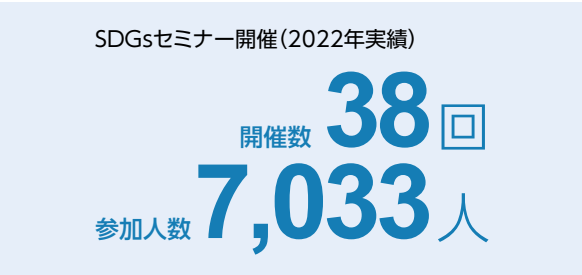
LGBTQ+アライのためのハンドブック

地域社会

地域社会とのコミュニケーションを大切にするとともに、持続可能な地域社会の発展や社会課題の解決に向け取り組んでいます。

地域へのSDGsセミナー開催

SDGsへの気運が高まるなか、CCBJHグループの新たな取り組みとして、私たちのCSV活動を多くの方に知っていただくため、社員講師を積極的に育成し、各種講演会への登壇や学校への出前授業を各地で実施しています。これからもこのように新しい手法を取り入れながら、地域のみなさまとのコミュニケーション機会の創出に注力していきます。



産学官民連携による地域協働プロジェクト

私たちは、地域行政や教育機関、市民団体など産学官民連携のもと、地域課題の解決やSDGsの達成に取り組む活動を支援しています。

●仙台若者SDGsアワード(宮城県)

宮城県仙台市と一般社団法人ワカツクと協働し、持続可能な社会の実現に向けて社会課題の解決に寄与する若者団体の優れた取り組みを表彰する「仙台若者SDGsアワード」を2017年より開催しています。

2022年度は6回目の開催となり、より多くの若者が活躍できる環境づくりを目指し、対象地域を宮城県内全域に拡げ、一次審査を通過した8団体が、11月にファイナリストとしてプレゼンテーションを行いました。

●SDGsワークショップ「ミエミライ」(三重県)

三重県、三重大学リカレント教育センター青木研究室、特定非営利活動法人Mブリッジと当社の産学官民連携のもと、対話を通じて三重の魅力向上や課題解決のアイデアを考えるSDGsワークショップ「ミエミライ」を開催しています。

●チャレンジインターンシップ事業(福島県)

2016年より、福島県、ふくしま地域活動団体サポートセンターと協働で「チャレンジインターンシップ事業」を開催しています。「若者の学び・体験支援」をテーマに、インターンシップを通して地域が抱える課題や福島の魅力を学び、未来のまちづくりを推進しています。

●MIYAZAKI SDGs ACTION(宮崎県)

高校生、大学生、企業が世代と立場を超え、共通の「指標と言葉」を用いて、持続可能な経済と社会のあり方について学び、考える「MIYAZAKI SDGs ACTION」事業に協力しています。2022年度は宮崎県えびの市にある当社工場の社員と学生が連携し、コーヒー豆粕や茶粕の地域循環リサイクルに取り組みました。



SDGs推進に向けた自治体・団体との協働

私たちは、飲料事業を通じて地域に価値を創出すべく、販売エリア内の自治体や団体と、SDGs推進に関する協定や、それらを含んだ包括連携協定を締結し、ステークホルダーと連携した地域課題解決に取り組んでいます。

●小山市と「SDGs推進に関する連携協定」を締結(栃木県)

2022年12月、当社と小山市はSDGsの普及啓発および情報発信、SDGsの推進に関する取り組みなどで連携することを目指した協定を締結し、取り組みの第一弾として「コウノトリと共生できる環境保全活動支援自販機」を、渡良瀬遊水地コウノトリ交流館に設置しました。

●埼玉県とのSDGsパートナーシップ

当社は、埼玉県が推進する「埼玉版SDGs」に賛同しています。2022年7月の「埼玉県SDGsパートナー」への登録を経て、連携事業として、8月より「埼玉版SDGs推進自動販売機」の展開を開始しました。さらに12月には「グローバル人材を育成するための協働に関する協定」を、埼玉県および公益財団法人埼玉県国際交流協会と締結し、売上の一部を「埼玉グローバル人材活躍基金」に寄付しています。

地域における水源涵養、生物多様性の保全

私たちのビジネスにとって大切な原材料の1つである「水」を育むため、全17工場の水源域にて水源涵養活動を推進しています。

各地の工場水源域は、水を貯える機能のほか、動植物の生息・生育地として大切な役割を担っています。私たちはこの水源域にて、地域のみなさまと社員がともに、かけがえのない水の大切さと地域ごとの生物多様性の保全について学ぶコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトに取り組んでいます。2022年は感染対策を講じながら、宮城県、茨城県、東京都、兵庫県、広島県、宮崎県の6つの地域に限定して開催しました。

水源涵養の活動地域

製造工場	水源涵養活動地域	製造工場	水源涵養活動地域
蔵王工場	宮城県刈田郡蔵王町	明石工場	兵庫県丹波篠山市
埼玉工場	群馬県利根郡品川村	大山工場	鳥取県西伯郡伯耆町
茨城工場	茨城県石岡市	広島工場	広島県三原市
多摩工場	東京都東久留米市	小松工場	愛媛県西条市
海老名工場	神奈川県厚木市、海老名市	鳥栖工場	佐賀県鳥栖市／三養基郡基山町
白州工場	山梨県北杜市	基山工場	
東海工場	岐阜県恵那市	熊本工場	熊本県阿蘇市、菊池郡大津町
京都工場	京都府綴喜郡宇治田原町	えびの工場	宮崎県えびの市

●多摩・明石工場水源域にて「森に学ぼう」初開催

2022年4月に東京都と一般社団法人地域パートナーシップ支援センターと締結した、自然環境保全に関する協定に基づき、多摩工場の水源域の1つである「南沢緑地保全地域」にて、社員および関係者など46人が参加し、コカ・コーラ「森に学ぼう」プロ



ジェクトin東京ひがしくるめを初開催しました。生物多様性の保全の面から、イチリンソウなど地域に生息する希少植物を保護するための遊歩道整備を行いました。

12月には、明石工場の水源域の森林において、2019年の協定締結後初めての開催となるコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトin兵庫たんばさやまを実施しました。

当日は、社員とその家族を中心に約50人が参加し、除伐をはじめとした森林整備活動や里山を保全することで種の多様性が回復することを学び、環境省絶滅危惧Ⅱ類になっているキンランを鹿から守り、植生の回復と希少植物の保護を図るための防護柵の設置も行いました。

地域のみなさまへのサポート

●フードバンク※への飲料製品寄贈

当社は2016年から日本初のフードバンク団体であるセカンドハーベスト・ジャパン(公益財団法人日本フードバンク連盟加盟)や一般社団法人全国フードバンク推進協議会などとパートナーシップを結び、各地域のフードバンク団体を通じて、子ども食堂や社会福祉施設に、定期的な飲料製品の寄贈を行っています。

2022年は、17都府県の24団体に、コカ・コーラ社製品を38,713ケース(937,852本)寄贈しました。

※「食料銀行」を意味する言葉で、品質には問題がないにもかかわらず処分される食品を、企業から寄贈を受けて福祉施設や困っている人に届ける団体や活動

●奨学支援事業

コカ・コーラシステムの奨学支援事業の歴史は、1966年にまで遡ります。当社では、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の支部として、優秀な青少年を地域社会に貢献できる人財に育てるために、給付型奨学金支援事業を行っています。大学進学者のほか、サステナビリティやSDGsの推進を目的とした大学院進学者も奨学生として採用しています。

●全肢連への支援

当社を含むコカ・コーラシステムでは、肢体不自由児・者の福祉の増進と、自立による社会参加を目的としてさまざまな事業を推進する一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会(全肢連)に対し、全肢連ステッカー付自動販売機の売上金の一部を活動費として寄付するなど、1980年より40年以上にわたり支援しています。

●市村自然塾九州による教育改革への協力

子どもの教育改革の一助のため、当社が設立に関わった市村自然塾では、「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念に、農作物の栽培、収穫の作業や団体生活を通じて、子どもたちが自主性や社会性を身につけ、主体性や創造性などの資質を育む場を提供しています。参加者は3月末から12月初旬までの約8ヵ月、佐賀県鳥栖市の豊かな自然のなかで仲間やスタッフとともに過ごし、さまざまな活動を体験します。

フードバンクへの製品寄贈数(2022年実績)

38,713 ケース
937,852 本



特定非営利活動法人eワーク愛媛への飲料製品寄贈(愛媛)

社員ボランティア活動の推進

当社では、社員も地域社会の一員であるという考えのもと、社会福祉活動や清掃活動、森林保全活動や草原再生活動など、社員が地域社会に貢献するボランティア活動を推進しており、ボランティア休暇制度の導入などで活動を後押ししています。

社員のボランティア参加率(2022年実績)

20.0%



2023年度の新入社員によるクリーン活動(東京)



ラブアース・クリーンアップへの参加(福岡)



森林保全活動(広島)

スポーツクリニック／ホッケー教室開催
(2022年実績)

開催数 19 回
参加人数 5,160 人



高円宮杯2022ホッケー日本リーグで優勝した
コカ・コーラレッドスパークスホッケー部

スポーツを通じた地域応援

●地域に根差す「コカ・コーラレッドスパークスホッケー部」

当社が運営する「コカ・コーラレッドスパークスホッケー部」は、ホッケー日本リーグに加盟し、広島県広島市を本拠地に活動しています。

2022年は、第83回全日本女子ホッケー選手権大会、第44回全日本社会人ホッケー選手権大会、第77回国民体育大会に出場し、いずれも準優勝したほか、高円宮杯2022ホッケー日本リーグでは、レギュラーステージを1位で通過し、シーズンファイナルで2年ぶりに優勝を奪還しました。

また、2022年はコロナ禍で制限されていたスポーツクリニックの開催や地域イベントへの参加も再開し、国際舞台で活躍で

きるアスリートの育成を目的とした「ひろしまスポーツアカデミー選考会」への参加や、宮城県栗原市での2年ぶりのホッケー教室開催、東京都台東区立大正小学校の「人権スポーツ教室」への講師派遣など、明るく活気ある地域づくりと誰もが活動的で健康的に過ごせる社会づくりに寄与しました。

こうした活動の功績が認められ、2022年12月に「広島県スポーツ協会スポーツ賞」をチームとして受賞しました。

●カンパニーアンバサダーの任命・支援

当社では、7人制ラグビー日本代表の津岡翔太郎選手をカンパニーアンバサダーに任命し、津岡選手が代表メンバーとして競技に集中できる環境をサポートしています。

工場見学を通じたコミュニケーション

当社では、工場見学をお客さまや得意さまをはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまとのダイレクトコミュニケーションの場と位置付けており、国内17工場のうち、蔵王工場(宮城県)、多摩工場(東京都)、東海工場(愛知県)、京都工場(京都府)、広島工場(広島県)、えびの工場(宮崎県)の6工場に見学施設を有しています。

●新しい生活様式に対応した工場見学

新型コロナウイルス感染拡大防止のために休止した工場見学到に代わり、2021年6月にスタートしたオンライン工場見学は、自宅や学校にいながら全国どこからでもリモートで参加することができ、2022年は約5,000人のお客さまにお楽しみいただきました。

●サマースクールをオンラインで初開催

通常の工場見学に加え、自由研究のテーマにもなるSDGsの取り組みなど、家族で楽しみながら学んでいただく「サマースクール」を、2022年はオンラインで初めて開催し、4日間で約1,000人の方にご参加いただきました。

●来館型工場見学の再開

2022年12月に、エリア内6工場に先駆けて宮崎県の「えびの工場」で見学を再開し、2年9ヵ月ぶりに当社の工場に賑わいが戻りました。

当面の間は感染対策を施した縮小営業となりますが、順次工場見学を再開し、お客さまと対面でコミュニケーションを図る機会を創出しつつ、オンラインと両立したハイブリッドな工場見学を行っています。



初のオンライン開催「サマースクール」



約3年ぶりに賑わいが戻ったえびの工場

資源

大切な資源を持続可能な形で有効活用していくため、継続的に改良・工夫を進め、環境保全に貢献していきます。

World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)の実現に向けて

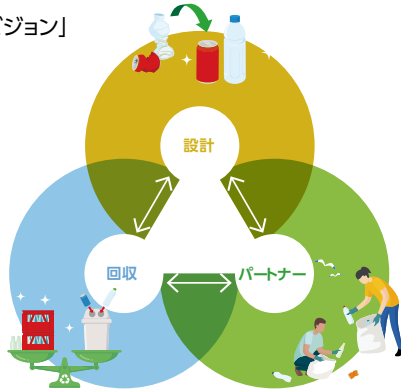
●容器の2030年ビジョン

ザ コカ・コーラ カンパニーは2018年に環境負荷軽減のため、「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」の実現をグローバル目標として掲げました。この目標を達成するために日本のコカ・コーラシステムは、同年1月に「容器の2030年ビジョン」を設定し、2019年7月にはこれを更新して従来の目標達成を前倒しする新たな目標を発表しました。このビジョンに基づき、容器由来の廃棄物削減と、日本国内におけるプラスチック資源の循環利用を促進しています。

●3つの柱とロードマップ

「容器の2030年ビジョン」は「設計」「回収」「パートナー」という3つの柱から構成されています。3つの柱のそれぞれに具体的な目標を設定しており、2030年の目標達成に向け、活動に取り組んでいます。

「容器の2030年ビジョン」3つの柱



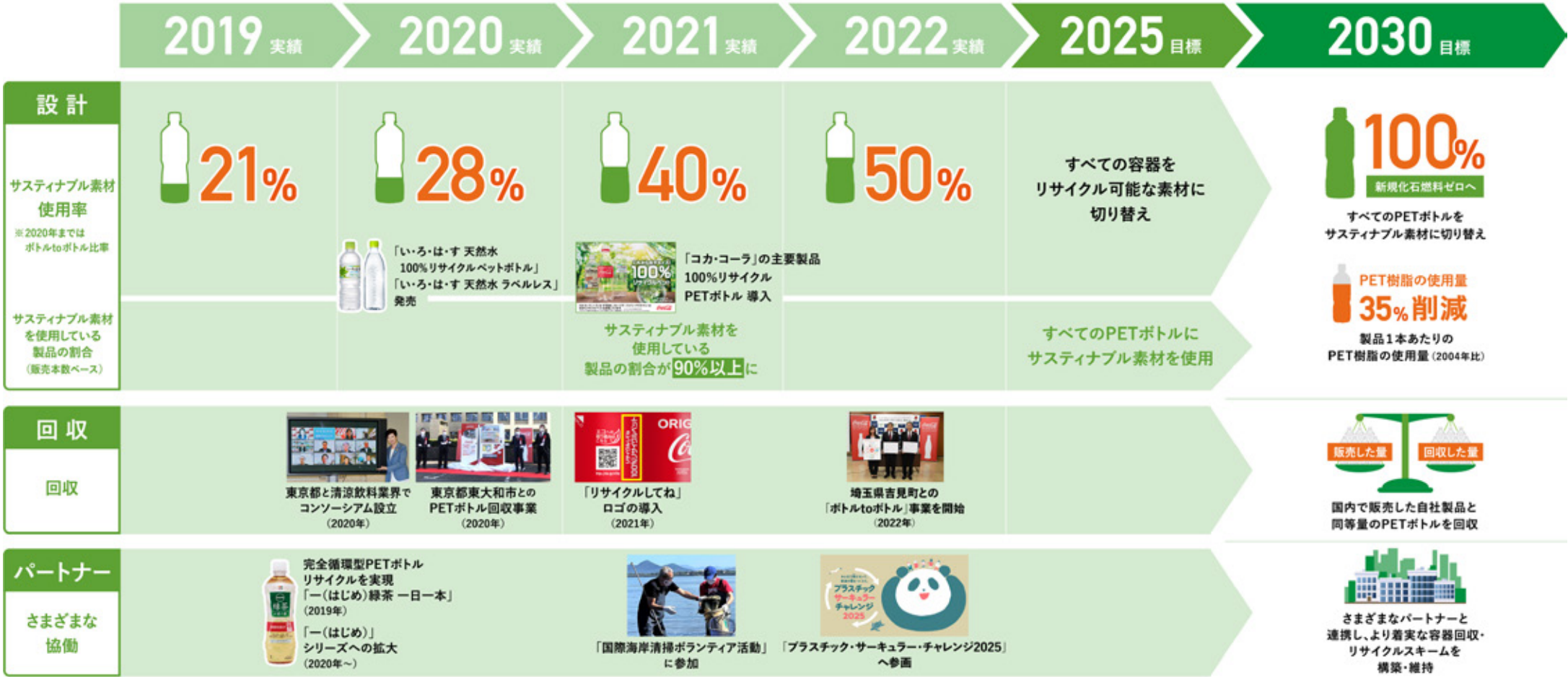
活動成果 設計

- 国内の清涼飲料事業における2022年のPETボトル容器へのサステナブル素材* 使用率50%を達成
- 国内で販売している約90%のPETボトル製品(販売本数ベース)にサステナブル素材* を使用
- 2022年12月現在、旗艦製品「コカ・コーラ」をはじめとする4ブランド44製品に100%リサイクルPETボトルを導入
- ラベルレス製品は、2020年4月に発売した「い・ろ・は・す」を皮切りに、「綾鷹」「爽健美茶」「カナダドライ ザ・タンサン・ストロング」「アクエリアス」「コカ・コーラ」「ジョージア」を含む10ブランド21製品に拡大、今後も順次拡大を予定
- 2021年「コカ・コーラ」700ml PETボトルを従来の42gから27gに軽量化
- 2022年「ジョージア ジャパン クラフトマン」500ml PETボトルは従来の19.5gから17gへ、「コスタコーヒー」265ml PETボトルは従来の29.5gから18.5gへ軽量化

* 「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計



日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン」



「資源」への取り組みの詳細
<https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/>



活動成果 回収 パートナー

「容器の2030年ビジョン」達成に向けた取り組みの一環として、使用済みPETボトルから新しいPETボトルに再生する「ボトルtoボトル」に取り組んでいます。

●行政との「ボトルtoボトル」の協働事業

市民・事業者・行政の三者が一体となった着実な容器回収・リサイクルスキームの構築に向けて、行政との「ボトルtoボトル」の事業を協働しています。PETボトルの水平リサイクルの実施を目的とした協定の締結を2022年から進めており、2023年には、1月に滋賀県守山市、神奈川県座間市、神奈川県海老名市、2月に静岡県沼津市、3月に兵庫県西宮市、4月に福岡県福岡市、福岡県北九州市の合計10自治体(2023年4月時点)との協定を締結をしています。



●事業系パートナーとの「ボトルtoボトル」の協働事業

2022年6月に三菱地所株式会社と協業し、丸の内エリア(大手町・丸の内・有楽町)のオフィスビル共有部で「ボトルtoボトル」の仕組みを構築しました。また当社の自動販売機を活用し、テナント就業者に対して、使用済みPETボトルの適切な分別回収の啓発に取り組んでいます。さらに、2023年4月より愛知県、三重県内の一部の株式会社スギ薬局の店頭で回収された使用済みPETボトルを再原料化し、当社で製品化する「ボトルtoボトル」事業を開始し、回収実施エリアを順次拡大しています。

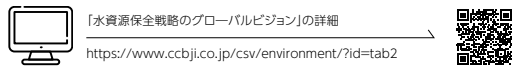
水資源保全戦略のグローバルビジョンと工場水源域での水資源保全

2021年3月、ザ コカ・コーラ カンパニーは2030年に向けた水資源保全戦略のグローバルフレームワークを発表しました。このフレームワークは、地域の水源涵養、より厳格なポリシーの提唱、事業と地域社会における責任ある水の利用などを通じた持続可能な水資源の保全に重点を置いています。当社では、かけがえない「水」を使用しビジネスを行う企業として「2030年までに水使用量30%削減(2015年比)」および「2025年まで水源涵養率200%維持」の目標を掲げて水資源保全を推進しています。

日本のコカ・コーラシステムでは、工場で使用する源水を保護するために日本コカ・コーラが定める源水保護ガイドラインに

沿って定期的に源水の脆弱性を評価し、源水保護計画を策定しています。そして同計画のもと、製造過程における水使用量の削減(Reduce)、製造過程で使用する水の再利用(Recycle)、水源域の水源涵養(Replenish)を軸とした活動を展開しています。

また、全17工場の水源域にて水源保全協定を締結し、地域、専門家の方々と協力して水資源保護に努め、2022年の水源涵養率は420%となりました。



水に関する主な指標と実績

製造に使用した水

13,287千m³
前年比+2.3%

水源涵養面積

約8,136ha
前年差+4.1ha

製品に使用した水

4,087千kL
前年比+1.9%

水源涵養率

420%
前年比+67%

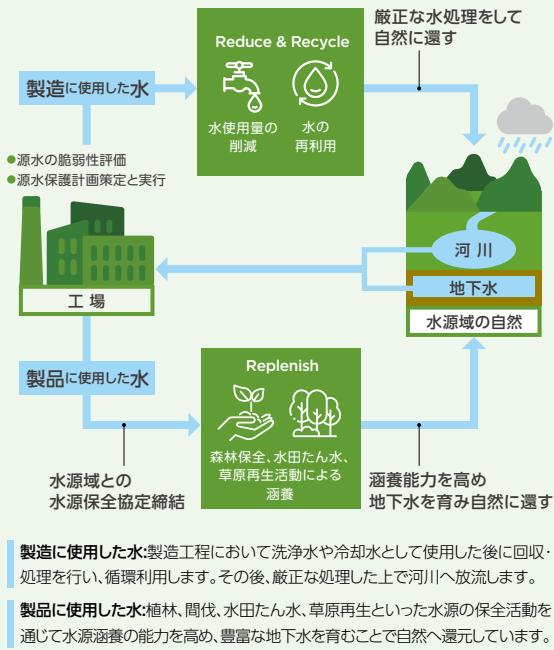
製品1Lを製造する際に使用した水
(WUR : Water Use Ratio)

3.25L/L
前年差+0.01L/L

水源保全協定締結

全17工場
前年比+1工場

コカ・コーラシステムの考える水の循環



温室効果ガス(GHG)排出量削減による気候変動の緩和と適応

日本のコカ・コーラシステムは、パリ協定ならびに科学的根拠に基づくGHG排出量削減目標に沿って、サプライチェーン全体のGHG排出量削減に取り組んでおり、2050年までにGHG排出

量実質ゼロの達成を目指しています。当社は、中期非財務目標「CSV Goals」として、日本国内のバリューチェーン全体におけるGHG排出量を2015年比で、2030年までにスコープ1、2に

において50%、スコープ3において30%削減することを目指す目標を策定し、さまざまな取り組みを実施しています。

具体的には、2022年7月より、日本のコカ・コーラシステム最大級の保管・在庫能力を持つ自動物流センター「明石メガDC」の稼働を開始しました。これまで各セールスセンターで行ってきた仕分けやピッキング、在庫保管などの倉庫業務を段階的に集約し、お得意さまや各自動販売機までをエンド・ツー・エンドで高効率に製品をお届けする物流ネットワークを構築し、長距離輸送を削減することなどにより、GHG排出量削減に取り組んでいます。また、ストローや紙カップの蓋をプラスチック素材から紙製素材へ変更することによりプラスチック使用量の削減に取り組んでいます。さらに、当社の自動販売機横に設置しているリサイクルボックスから回収された使用済みアルミ缶を缶胴の原材料として使用する、アルミ缶の水平リサイクル「CAN to CAN」や物流過程で使用するパレット※1やシェル※2のリサイクル「パレツ

トtoパレット」「シェルtoシェル」を積極的に推進し、原材料・資材の循環利用促進によるGHG排出量の削減に貢献しています。

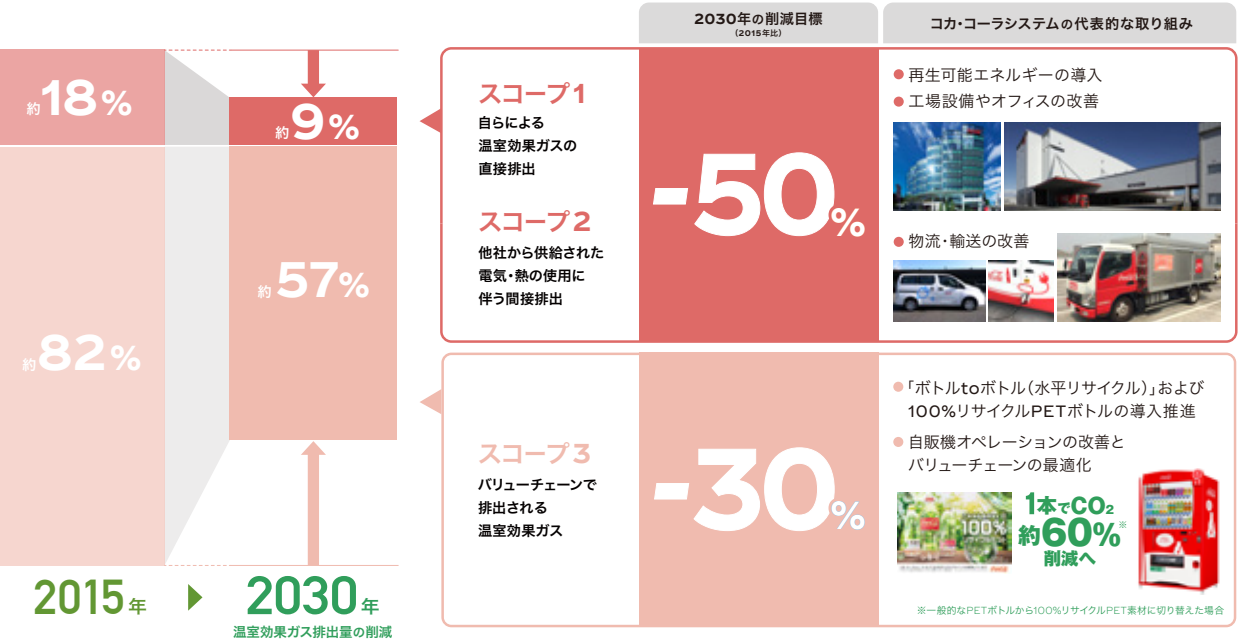
※1 製品の輸送や保管の際に使用される水色や黒色などの荷役台
※2 瓶製品を入れるケース

●再生可能エネルギーの活用

白州工場では、山梨県と東京電力エナジーパートナー株式会社が共同で運営する電力供給ブランドやまなしパワーPlus「ふるさと水力プラン」の供給契約を締結し、水力発電による電力を使用しています。

また、他工場でも東京電力エナジーパートナー株式会社が提供する、発電時にCO₂を排出しない水力発電による電力のみを購入するプランの使用や、自然エネルギーにより発電された電気であることを第三者認証機関が認証するシステム「グリーン電力証書」を購入するなど、再生可能エネルギーの活用を進めています。

日本のコカ・コーラシステムの温室効果ガス(GHG)削減目標



アルミ缶の水平リサイクル「CAN to CAN」

